

平成30年度 栃木県立真岡北陵高等学校 学校評価

1. 教育目標

1) 将来の地域産業を担い、地域の発展に貢献できる人材を育成する。
2) 産業技術の専門化、高度化、国際化に柔軟に対応できる将来のスペシャリストを育成する。
3) 礼節を尊び心身ともに健康で、人間性豊かな職業人を育成する。

2. 今年度の重点目標

1) 学習指導、進路指導の充実 ・指導方法の研究改善と研修の充実 ・資格取得の推進 ・組織的、系統的な進路指導体制の確立	2) 規律ある生活習慣の育成と規範意識の醸成 ・あいさつの励行 ・交通ルールの遵守と交通事故防止 ・情報モラル育成とネットトラブルの防止	3) 特色ある教育活動の推進 ・地域貢献、地域連携の一層の推進 ・部活動の活性化 ・地域への情報発信
---	---	---

3. 学校自己評価

領域	今年度の努力目標	今年度の具体的な活動内容・取り組み	評価
教務部	本校の特色を生かした活力ある教育計画を推進する。	・学校の特色を生かした行事の適正化と、地域に根ざした教育活動を目指す。 ・学科の目標、生徒の興味関心や卒業後の進路等を考慮した教育課程編成を行う。 ・中学校、保護者、地域社会に対する広報活動を充実させる。	B
	効果的で円滑な校務運営に努める。	・校務処理・データ管理の適正化・効率化を図る。 ・学校ホームページの活用と、広報活動のための資料作成・管理を図る。	A
学習指導部	1～3学年を見据えた、基礎学力の向上と定着を図る。	・生徒の実態を把握し指導計画を作成する。 ・朝の読書、漢字書き取りの時間を充実させる。	B
	特色ある教育活動の充実と学習指導方法の研究と改善による「わかる授業」を実践する。	・基礎・基本を確実に習得させる。 ・学習形態や指導方法を工夫する。 ・教材・教具を開発・工夫する。	B
	生徒の立場に立った指導を実践し、多面的な学習評価をする。	・興味関心の高い授業を展開し、授業態度、提出物、出席状態などを加味して多面的に評価する。	B
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立を図り、集団の一員であることの自覚を促す。	・挨拶を励行する。 ・高校生として適正な身だしなみを身につけさせる。 ・時間厳守、規則遵守の意識を醸成する。	B
	豊かな人間性の育成に努め、生きる力を身につけさせる。	・相手の気持ちを考え、不快感を与える言動がないよう意識させていく。 ・個を認め合い、思いやりのある行動が取れる力を身につけさせる。	B
	地域社会や関係機関との連携を図り、交通安全教育の徹底に努める。	・交通ルール遵守やマナー向上を意識させる。 ・危険を予測する力を身につけさせ、交通事故防止に努める。 ・自転車保険への加入を推奨する。	B
	生徒理解や生徒把握に努め、生徒個々に合った適切な指導援助を行う。	・生徒へ積極的に声かけや面談を行い、生徒理解に努める。 ・学年・学科・保健室等で密に情報交換を行い、生徒の理解・指導に努める。 ・家庭的背景を十分に把握した上で、生徒に応じた指導援助を心がける。	A
	危機管理意識の高揚に努める。	・貴重品、自転車等の管理を徹底させる。 ・不審者と遭遇した場合の適切な対応等を身につけさせる。	A
	特別支援教育における支援の方法を検討する。	・支援が必要な生徒一人ひとりの特性に応じた支援の手だてを検討する。 ・校内研修会を開き特別支援に関する職員の共通理解を得る。 ・支援が必要な生徒に対し、保護者と連絡を取りながら関係機関との連携を図り適切な援助を行う。	A
特別活動部	生徒会活動、部活動、家庭クラブ活動等特別活動の活性化に努める。	・自主的かつ規律ある活動を促し、生徒自ら行動できるように指導する。 ・生徒一人ひとりが意欲的に参加し、達成感を得られる運営に努める。	A
	部活動の活性化と成果を目指した指導の充実に努める。	・学年や部顧問と連携して、部活動の加入率向上を図る。 ・活動場所等の管理指導を行い、安全で規律ある活動を促す。	B
進路指導部	学校全体で就職・進学の実現に努める。	・各学科との連携を図り、学科の特色を生かした進路指導を行う。 ・就職者に対する面接指導を全職員体制で実施する。 ・就職希望者を全員内定させ、進学希望者も希望の学校へ行けるよう支援する。	A
	進路意識を高め、職業観と勤労感を醸成する。	・2年時のインターンシップを通じて、勤労観を植え付けさせる。 ・生徒が抱く進路に対する不安を解消すべく、相談の機会を増やし、開かれた進路指導室にするよう努力する。	A
健康指導部	健康に関心を持ち、自己健康管理ができるようにする。	・健康診断により、自分の健康について考えさせ、健康的な生活が送れるようにする。 ・保健室前の掲示物の活性化や、保健だよりの定期的な発行により、保健情報を提供する。 ・保健委員会活動の充実を図る。	B
	心の健康問題に対する支援の充実に努める。	・心の健康問題について、教育相談係や担任と連携をとり、組織的な対応を行う。 ・保健室来室の情報を教職員で共有し、心の健康問題の早期発見・早期対応を図る。	A
	防災意識を高め非常事態時に適確な行動をとれるようにする。	・学校防災避難訓練を真剣な態度で実施させる。 ・学校祭での火器取扱・冬季のストーブ取扱等安全に配慮できるようにする。	B
	校舎内外の美化運動の推進と老朽箇所の調査記録。	・日々の清掃活動の充実と大掃除での取組の強化、意識向上。 ・老朽及び危険箇所の調査。	A
	ゴミの減量と分別意識の向上を図る。	・ゴミの減量、分別意識を高め、実践する。	A
渉外部	PTA・同窓会諸団体との円滑な連携を図る。	・PTA・同窓会・諸団体からの要請に対応できる体制を確立する。また、同団体に対し、必要に応じて協力を依頼する。 ・同窓会員、役員との連絡調整を図る。	A
	各種行事への積極的な参加・協力を促す。	・PTA総会、PTA支部懇談会、その他の行事に対し、積極的な参加を呼びかける。 ・同窓会総会、役員会のスムーズな運営を支援する。	B
	高校生未来の職業人育成事業・産業教育振興会・広報、地域連携事業の円滑な運営を図る。	・対外的な行事に対して連絡調整を密にし、積極的な参加を呼びかけ、実りある内容になるよう努力する。	B

生物 生産 科	学習指導の充実による技術向上を図る。	・実験・実習と座学との反復学習により、知識・技術の定着を図る。 ・生徒の言葉遣いや表現力など、言語活動を充実させる。 ・学習指導、生徒指導を行うにあたり、科職員の共通認識を深め、科生徒の活動の充実を図る。	B
	進路意識の定着と進路指導の充実を図る。	・資格取得の向上やインターンシップ、企業・学校見学、により、興味・関心を高め、進路意識を定着させる。 ・科生徒の面接・論文指導を科職員全員で充実させ、生徒の進路実現を図る。	B
	適切な農具の使い方の指導の徹底および安全意識の向上を図る。	・道具・施設の取扱い方法の指導及び学習環境の整備を行うことで安全教育の充実を図る。 ・各授業・実習において安全な服装で実習に臨むように指導をし、農業機械を使用する場合には事前指導を徹底する。	B
農業 機械 科	専門教科における指導内容を充実させ、学習効果の向上を図る。	・専門知識を深めるため、本校農場のトラクタ・コンバインなどの農業機械(実物)を見たり、関連企業の見学会を実施して、エンジン の構造や仕組みについて興味・関心を持たせる。また、どこまで理解したかを小テストやアンケートで確認する。 ・専門技術を高めるため、帝京大学サイエンスキャンパス・とちぎマ イスター技能セミナーや課題研究・キャリア形成支援事業等で民間企業 の方による指導を取り入れていく。それとともに教員の技術向上にも取り組み、指導法の工夫につなげる。 ・農業機械科のものづくり技術・知識を応用して、地域貢献のための 研究開発・作品制作や実験・実習に取り組み、各種発表に参加する。	B
	大学・企業見学や地域ボランティアに参加することで、生徒の自己理解を深め、各自の適性にあった進路選択ができるように指導する。	・自己理解のための適性検査、実力テスト、小論文模試、SPI試験 を通して、その結果をもとに面談を実施し、進路に対するアドバイスを行う。 ・進路希望にあった大学や企業の見学・講話(全学年)、キャリア形成支援事業(3年)、インターンシップ(2年)等を実施し、進路意識を深める。意識が深まったかどうかはアンケートや報告会で確認する。 ・ボランティア活動に参加し、地域の方々と交流することで、コミュニケーション能力の向上や地域づくりのリーダーとしての意識を高める。意識が高まったかどうかはアンケートや報告会で確認する。	B
	各種資格の取得により、進路実現の可能性を高め、進路選択の多様性を図る。	・各種資格の取得と職種の理解を図り、産業人としての資質を養う。 ・各学年で最低3つ以上、資格を取得できるように指導をする。全国的に合格率が低く、難しいといわれる資格にも積極的にチャレンジし、合格するように指導をする。	B
食品 科学 科	学習意欲の向上を図る。	・生徒の学習能力に合わせて段階的な指導を展開する。 ・実験や実習を各専門科目と連携させて行うことで意欲の向上を図る。	B
	資格取得の指導強化。	・将来の進路に関連づけて資格取得の有用性について指導する。 ・危険物乙種4類などの学科で合格率の低い資格試験については、放課後学習等の課外を実施し、指導法の工夫を行いたい。	A
	研究活動等の指導強化。	・意見発表やプロジェクト発表については、生徒たちの成果を発表できる場の提供に努めたい。イベント参加や行政との連携を図ることにより、生徒たちの活動の場を広げていけるようにする。 ・農業クラブの鑑定競技では、早い段階から生徒指導を行えるような準備や指導方法を学科全体で行っていく。	B
総合 ビジ ネス 科	資格取得の奨励。	・わかりやすい授業の展開に努める。・習熟度別授業を実施する。 ・検定前の課外を実施する。・高度資格への挑戦を奨励する。	B
	進路意識の確立と望ましい勤労観・職業観の育成。	・商業機関見学、上級学校見学、外部講師の招聘等を行い、早い段階で進路に対する意識を高める。 ・総合的学習の時間を有効に活用し、インターンシップの充実を図る。 ・マナー指導やコミュニケーション能力の向上を図り、社会性を身に付けさせる。	B
	各種競技会や研究発表会の積極的参加。	・生徒商業研究発表大会、ワープロ競技会や珠算・電卓競技会等へ積極的に参加し、上位入賞を目指す。	A
教養 福祉 科	実践的な学習を通して、介護職としての資質を育成する。	・授業研究を通して、授業力の向上に努める。・キャリア形成支援事業を活用する。 ・実習や交流会、各種発表会等を通じて、表現力を育む。	A
	介護福祉士国家試験の高い合格率を目指す。	・生徒が意欲的に参加できるような授業を展開する。 ・継続した家庭学習の習慣を身につけるように指導する。 ・個別指導を徹底する。	A
	関係諸機関との連携を図るとともに、期限内での正確な校務の処理に努める。	・介護実習や施設見学等の事前・事後指導を計画的に行う。 ・実習施設、実習指導者との連携を密にする。 ・提出書類等を計画的に作成する。	B

4. 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を身に付けるとともに、各科での専門性をさらに伸ばしてほしい。 ・資格を活かした分野に進路を決定される方も多く今後の活躍を期待している。 ・取得した資格を活かし実務で頑張っている卒業生を招いて、講話の機会を作ってはどうか。 ・スクールカウンセラーの導入は多様化した生徒の対応のためにも重要と考える。 ・自転車通学が多く、生徒が身を守る意識を高める体制づくりが必要である。 ・交通ルールの遵守、交通事故防止は粘り強い指導がなお一層必要だと思われる。 ・福祉科の授業時数は養成校として必要なものであり、学校行事とのバランスを考え、教師・生徒達の負担を少しでも軽減できたらよい。 ・「グローバルGAP」教員の指導と生徒の努力の結晶であり、地域貢献でもある。 ・ライフル射撃部の優秀な成績を持続してほしい。 ・教師の丁寧な指導が生徒の意欲につながっている。 ・研究発表や部活動においても全国レベルでも活躍している。 ・2020年の「全国いちごサミット in 真岡」に何かの形で、北陵高校が参加できるよう挑戦してほしい。 ・不審者が入れない対策をお願いしたい。
